

平成23年度 第2回瀬谷区地域福祉保健計画地区別計画推進懇談会報告	
日時	平成24年1月31日(火) 午後2時～4時
場所	区役所1階会議室
出席者	地区代表者 35名、ケアプラザ 16名、区社協 4名 区役所 20名 計 75名
目的	地域が地区別計画推進に際して、地域に一番身近な資源である地域ケアプラザとより連携を強める
内容	<p>第1部 各地域ケアプラザからの説明</p> <p>各地域ケアプラザから地域と連携して行っている事業(地域活動交流部門、地域包括支援センター) 特色のある事業についての説明</p> <p>(1) ニツ橋地域ケアプラザ 『青年学級「新鮮組」』(障害者の余暇活動支援) 『介護者のつどい「いっぶくの会」』(介護者支援) 等</p> <p>(2) 阿久和地域ケアプラザ 「灯籠祭り 昼の部 さとまつり」(阿久和北部・三ツ境地区社協 共催) 「社会を明るくする運動 スポーツイベント」(阿久和南部連合自治会主催)</p> <p>(3) 中屋敷地域ケアプラザ 「お助けパートナー」(細谷戸地区) 「サロン・ミニデイ連絡会」 等</p> <p>(4) 下瀬谷地域ケアプラザ 「カラーリング実施」(瀬谷第二地区) 「地域交流イベントへの参画」(南瀬谷地区) 等</p> <p>(5) ニツ橋第二地域ケアプラザ 「各地区とケアプラザの関わり」 「複合館内のケアプラザとしての目指すところ」 等</p> <p>(6) 区社協 事務局長から 地域ケアプラザの地域活動支援の例について</p> <p>第2部 意見交換</p> <p>課題解決の手法として他のケアプラザの取組を聞き、参考にできる点を考える機会とするため、地域ケアプラザごとのグループに自由に分かれての懇談を実施で実施。</p> <p>各地域ケアプラザが説明をした事業等に関して、事業の詳細(事業開始の経緯、事業の運営方法、人材確保の方法、地域とケアプラザとの役割分担等) について質疑応答や今後の地域とケアプラザの連携等についての意見交換を実施。</p> <p>20分間の懇談をグループ替えをして2回実施。</p>

<p>アンケート 結果</p>	<p>(1) 各ケアプラザに関する話は、参考になりましたか？（前半部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 参考になった 20人 (67%)</li> <li>② 少し参考になった 7人 (23%)</li> <li>③ 普通 0人</li> <li>④ あまり参考にならなかった 3人 (10%)</li> <li>⑤ 参考にならなかった 0人 <span style="float: right;">未回答 1人</span></li> </ul> <p>(2) ケアプラザとの懇談会は、参考になりましたか？（後半部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 参考になった 17人 (57%)</li> <li>② 少し参考になった 10人 (33%)</li> <li>③ 普通 2人 (7%)</li> <li>④ あまり参考にならなかった 1人 (3%)</li> <li>⑤ 参考にならなかった 0人 <span style="float: right;">未回答 1人</span></li> </ul> <p>(3) 今後、地区別計画を進めるにあたり、ケアプラザを活用できると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 活用できると思った 18人 (60%)</li> <li>② さらに活用したいと思った 7人 (23%)</li> <li>③ 現状で満足している 4人 (14%)</li> <li>④ どちらとも言えない 0人</li> <li>⑤ 活用できないと思う 1人 (3%)</li> </ul> <p>(理由 行政的な立場と事業者の立場の違い) <span style="float: right;">未回答 1人</span></p> <p>(4) 本日の懇談会の感想、今後の懇談会についての希望、現在の活動で感じていることなど。(主なご意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろのケアプラザのサポートに感謝しております。今後ともよろしく</li> <li>・地域ケアプラザと地区社会福祉協議会の連携強化が必要と思った</li> <li>・本郷地区の「あって本郷お助け隊」設立にご協力をよろしく申し上げます。</li> <li>・他の地域ケアプラザの情報を基に自分の知久と地域ケアプラザの関係を密に進めていきたいです。</li> <li>・各地域ケアプラザでそれぞれ違ういろいろなことをやっていると思いました。</li> <li>・各地区ともお助け隊の必要を感じとられた。永くつづけるにはどうするか。</li> <li>・細谷戸お助けパートナーの件で関心が集まったが、本郷地区社会福祉協議会のお助け隊のアンケート実施の結果を見てボランティアの理念の理想と現実の兼ね合いの中での可能性を求めていきたいと思いました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">参加者 35名 回答者 31名 回答率 89%</p>
---------------------	---